



本紙のカラー版をホームページ「本郷ふじやま公園」にてご覧いただけます

この思い天に届け！ ふじやまの七夕

大空を南北に悠々と流れる天の川が鮮やかに輝くようになると、今年もまた七夕の季節がやってきます。皆さんもご存知のように、七夕は、天の川を隔てて輝く彦星と織姫星が、一年に一度だけ川を渡って逢うことを許された日で、この日にちなんで短冊に願い事を書き、竹に飾るとその願いがかなうといわれています。

公園では、7月1日(日)から8日(日)までの七夕祭りの期間中、来園の皆さんに短冊を取り付けてもらえるよう、古民家の縁側に笹竹を立てかけます。皆さんも日ごろからそっと心に秘めていることを短冊に書き、星空に祈ってみたらどうでしょうか。目標に向けてがんばっている姿を、きっと天の神様もやさしく見守ってくれるに違いありません。

また、祭りの最終日の8日(日)には、わんこソーメン流しや輪投げなどの楽しいイベントを用意しています。子どもたちが青竹の上を流れる



わんこソーメンをたくさん食べたことや、輪投げで遊んだことが、大人になってからも七夕のよい思い出となってくれることを、スタッフ一同願っています。

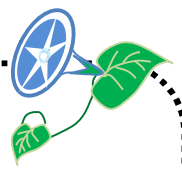
今年は、スカイツリーの開業や何百年に一度という金環日食の影響で、かつてないほど空への関心が高まっています。七夕の満天の星空のもと、宙ガール、宙ボーイの仲間入りをし、家族そろって宇宙の神秘について語り合うこともまた楽しいことではないでしょうか。



梅雨入りしたふじやま公園は深緑、淡い緑、その中にキンシバイやアジサイの花が混じって何とも言えない雰囲気がある。

この6月は古い言葉では水無月といい、雨が多いのになぜ？と思う。広辞苑では水を田に注ぎ入れる月とあったが、このために生活用水等が少なくなるためであろうか。ちなみに5月はさつきであるが、これは早苗月の意味であるという。昔の人は何と季節感にあふれていたことか、それも季節の労働に結びつけた豊かさがある。田植えが終わって、満々と水をたたえた田に規則正しく植えられた苗は秋の稔りを連想させてくれる。私たちからこうした豊かさが消えて久しいが、田植えや稲刈りという季節の原風景は今も私の記憶の奥にとどめられている。





古民家前庭の敷き砂を補充しました



古民家の前庭の敷き砂は 10 年ほど経過して風で飛ばされ雨水に流されて、少なくなり土の部分の露出が目立つようになってきました。雨の後には水たまりができて来園の皆さんに迷惑をかけるようになってきました。

そこで新しい砂約 5 m³ を入れ(厚さ約 3 cm)、主屋前や事務所前の凹凸の補正を行いました。また、日本庭園にも砕砂利を入れました。前庭の見た目が一新しました。追加の砂が定着するまで養生が必要なため、竹馬や竹ポックリの遊戯は、当分の間ご遠慮をお願いしています。ご協力ください。



さかえグリーンサポーター研修会がふじやま公園で行われる



グリーンサポーター活動とは、栄区内の緑地の持続的かつ適切な管理のため、愛護会等と企業及び学校が協働して取り組み、現在の担い手を増やしていく『維持管理活動への参加』や将来の担い手育成に向けた『次世代を対象とする環境教育への取組み』などの活動のことです。

その一環として、今年も 5 月 12 日と 19 日、グリーンサポーター登録第 1 号の株式会社信光社から延べ 28 名が参加し、竹林整備に取り組んでいただきました。区役所の担当者や公園のスタッフともども 150 本以上の竹を伐採しました。信光社の皆さんお疲れさまでした。



古民家 Q&A 富士講碑文 参明藤開山の意味



Q: ふじやま山頂の富士講碑文「参明藤開山」の意味は何ですか

A: 本郷ふじやま公園のふじやま頂上に富士講の碑が 4 基立っています。その中で一番大きい石碑に「参明藤開山」の碑文が彫られています。「サンミョウトウカイザン」と読み、富士講での富士山の信仰上の敬称です。日と月(明)と富士(藤)の三つ(参)は一体だと云う富士講の教義を表します。



富士講とは富士山に登拝し、富士浅間の靈威を感得してその加護を祈願する信仰団体です。古くからある山岳信仰と修験道の延長線上に、更に江戸中期から盛んになった弥勒(ミロク)信仰を包含して関東を中心に発展しました。富士山まで登ることの出来ない講中の人のために各地に富士山を真似た富士塚が築かれ講碑が建てられました。



昭和の初期まで旧暦 6 月 1 日の山開きの日には富士詣でが行われ、出店も出て賑やかだったと伝えられています。今も残る 4 基の石碑は往時の賑やかさのよすがを伝えています。だいじに残したいものです。

ふじやま公園の植物

シロツメクサ マメ科

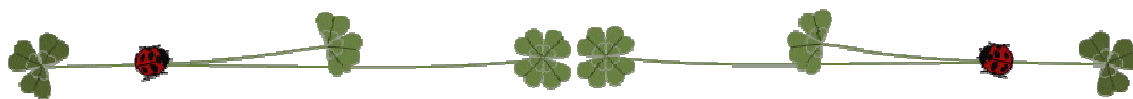
アジア、ヨーロッパの原産。明治以降に家畜の飼料として導入されたものが野生化した帰化植物。茎は地をはって長く伸び、葉の付け根の各節から根を出す。葉は卵形で表面に白い斑紋がある。主に小葉3枚からなるがまれに小葉4枚のものは「四つ葉のクローバー」として親しまれる。花は白色または薄い紅色の蝶形花を球状に集まってつける。



牧草として栽培の他、雑草防止等の緑化に利用される。オランダから輸入したガラス製品の梱包材としてシロツメクサの乾燥したものが用いられ、詰め草から名前の由來說。別名ゲンゲともいう。

『いろいろ辺雑記』から (原文のまま)

- ・久しぶりにきました。ちょっと暑くなりました。ここは静かで落ち着きます。
- ・ココは静かで涼しいし和みます。悩んでいる時は、ココにくると落ち着きますよ。



開園10周年記念事業プロジェクト(略称10P)ニュース

第113号で紹介しましたように標記のプロジェクト(10Pと略称)が発足し、活動を始めています。プロジェクトは式典、出版物・記念品、記録、メディア、催事、イベント、渉外の7分科会に分かれて作業を行っています。多くのアイデアが提案され、検討中です。例えば、「記念誌」の名称・内容・装丁、公園全体の「案内図作成」・「散策路愛称公募」の基礎資料となる園路の実地調査、「記念植樹」の時期・場所・樹種の検討や公園の「シンボルマーク公募」の対象・選定方法などです。

皆さんの知恵と汗で将来の思い出になる事業を行いたいものです。皆さんの更なる参加をお待ちしています。

平成24年7月ボランティア活動予定

部会・事項	日程	部会・事項	日程
事務局会議	6日(金)	古民家歴史部会 部会	8日(日)
農芸部会 部会 作業	16日(月) 月曜日 木曜日	古文書解読勉強会 歴史探訪	1日(日) 22日(日) 5日(木)
里山部会 作業	14日(土) 21日(土) 22日(日)	囲炉裏守 囲炉裏焚き	当分の間 休みます
工作棟部会 部会 子ども工作準備	25日(水) 適時	クリーンアップ	3日(火) 17日(火)
ホームページ制作打合せ	6月30日(土)	ふじやまだより編集会議 印刷	7日(土) 14日(土)

楽しい教室のお知らせ

奮ってご参加ください。お待ちしております。

教室名	日 時	内 容	参加費	応募期限
作って遊ぼう～ 子供工作の日	7月15日(日)10時～12時 13時～15時	牛乳パックコプターとコマをつ くります	無料 当日受付	10時～11時 13時～14時 先着順10名
寺子屋 Part-	7月26日(木)13時～ 15時30分	日本人の数へのこだわり	無料	7月10日(火) 15名
布ぞうり作り	8月17日(金)10時～15時	一日で一足完成します	500円	7月31日(火) 12名
伝統工芸「鎌倉 彫」を彫る (全3回)	8月31日(金)10時～ 12時30分 9月14日(金) 同上 9月28日(金) 同上	18cmの平皿に「ザクロ」を彫り ます	2,000円	8月10日(金) 10名

- (1)応募要領：往復はがきに、教室名、氏名(ふりがな)、郵便番号、住所、電話番号を書いて
応募期限までに本郷ふじやま公園へ
(2)応募者多数のときは抽選 (3)持参品：返信はがきで連絡します。

・・・お知らせ・・・

わんこソーメン流し

開催日時：7月8日(日)10時～12時 雨天中止 場所：前庭
青竹の樋にカップ入りのソーメンを流します
10時 食券販売 200円(150名)
11時～12時 わんこソーメン流し
輪投げ、笹飾り(持ち帰り用笹は用意しています)



七夕祭り

開催日時：7月1日(日)～7月8日(日)10時～15時 7月4(水)は休館
期間中古民家縁側に笹竹を立てかけます。来園の皆さんには短冊に願い事を書き
竹に取り付け、一緒に彦星・織姫星に願いを託されては如何ですか

5月ふじやま公園来園者数 2,591名

24年度累計 5,619名

・開館時間：9時～17時
・入館料：無料
・休館日：7月4日(水)
・クリーンアップ：7月3日(火)7月17日(火)10時～11時

ふじやま公園運営委員会

〒247-0009 栄区鍛冶ヶ谷1-20 TEL：896-0590 FAX：896-0593

「ふじやまだより」に対するご意見や感想を電話、FAXでお気軽にどうぞ